

5-1 事業の推進に関する基本的な考え方

5-1-1 施設整備、施設管理の取組

(1) 施設の維持管理

施設の改修及び修繕については、施設劣化度調査で判定した劣化度や更新周期等を総合的に判断した、中長期修繕計画等を策定し、継続的かつ計画的維持管理を行う。特に、屋根・外壁・空調・EVについては、法令、老朽状況、安全性、研究・教育のための環境、学生支援目的、省エネ、バリアフリーの視点を考慮し、優先づけを行う。

2章のキャンパスの現状と課題でふれたように、建築後25年以上経過した施設の未改修面積は年々増加する。これらの未改修建物は、将来にわたり有効に活用する施設と減築の対象とする施設とに判別しながら管理を進める。

(2) 施設の有効活用

施設の有効活用に向けて、全室使用実態調査、使用室の引継ぎ状況調査、講義室稼働率調査等を実施し、これらの調査に基づき、教育研究の質的向上を図ることを目的にスペースの集約化・再配分を図ることとする。具体的には、全学共用スペースを生み出し、プロジェクト型の研究に適した室の確保や共同実験室などとして利用することとする。

さらに、将来的学生数等の変化を想定し、施設規模の適正化を図ると共に、教育・研究活動の多様化に対応可能なものとする。



プロジェクト型の研究スペース



プロジェクト型の研究スペース

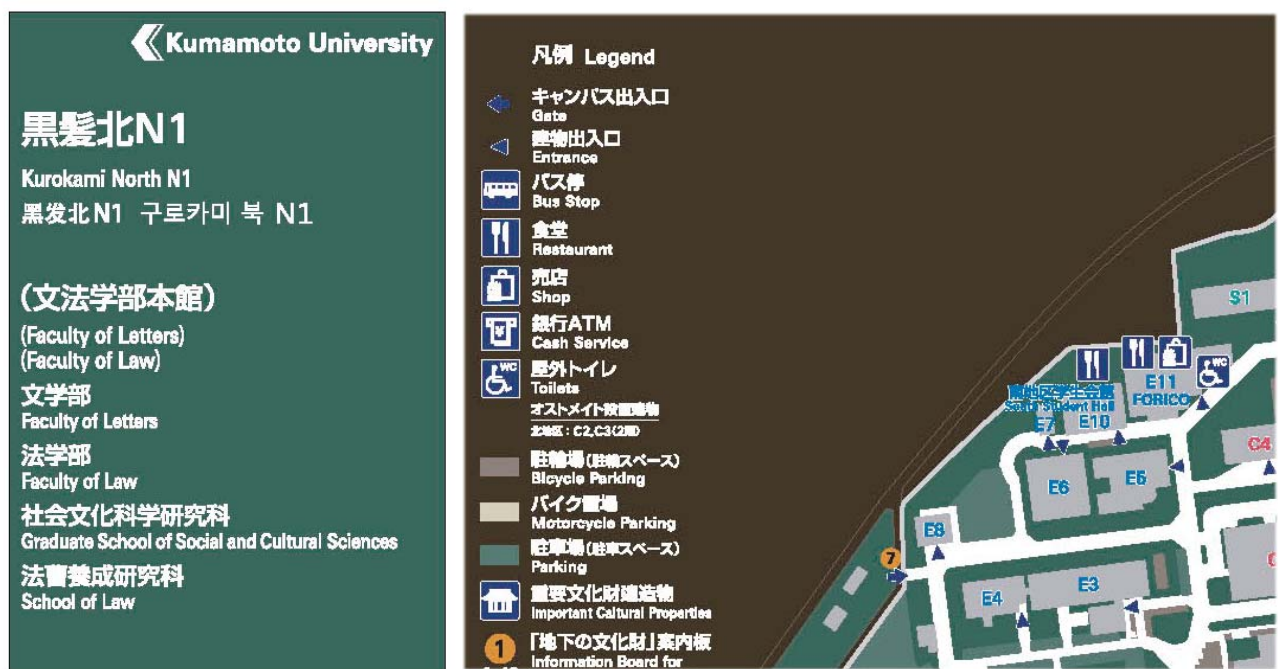
(3) 省エネルギーの取組

本学は省エネ法関連における「特定事業者」に指定されていることから、全学的に判断基準を遵守し、中長期的には年平均 1%以上のエネルギー消費原単位の低減及び、電気需要平準化評価原単位の低減に努めることが求められている。また県条例関連でも、二酸化炭素排出量抑制の努力責務があるとされており、社会的責任が強まっている。

そこで、本学では「組織力」「具体的な計画力」「確実な実行力」この 3 つの方法で省エネ法等によって求められる社会的責任を果たすこととする。「組織力」は、各キャンパス毎に省エネ委員会を設置し、施設・環境委員会等と協働しながら、P D C Aサイクルの手法を用いて、スパイラルアップを図ること。「具体的な計画力」では、部局等の特性に応じた適切な年度計画の策定による具体的できめ細かな計画とすること。「確実な実行力」では、適切な年度計画に基づき「ムリ」「ムダ」「ムラ」の少ない確実な計画の実行。これらが目標達成に向けての当面の取組である。

(4) グローバル化に対応した取組

本学は、文部科学省の「研究大学強化促進事業」及び「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択され、今後、教育・研究活動の国際化、国際交流の活発化が想定されることから、多言語表記の屋外サイン整備による教育・研究活動の円滑化支援、及び外国人宿泊施設等の拡充による生活環境支援など、本学の目指す国際化推進拠点大学としてのキャンパス環境を整えるものとする。



多言語表記の屋外サイン (部分)

5-1-2 地域連携に向けた取組

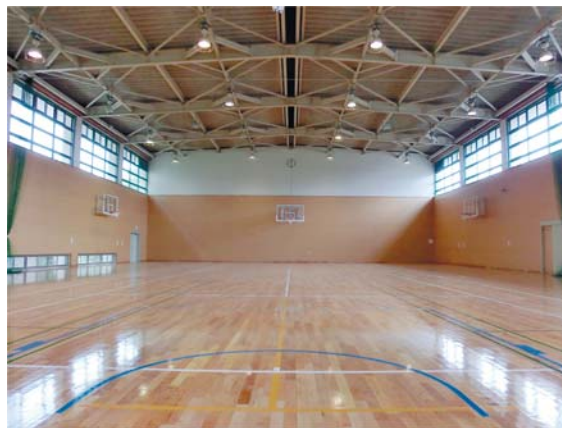
(1) 地方自治体との連携

平成 25 年 3 月、熊本市と「災害等緊急時における施設使用に関する覚書」を締結したこの覚書は、豪雨や地震などの自然災害、大規模な火災若しくは爆発及びその他の大規模な事故等が発生した場合に、熊本大学の施設を一時避難場所や避難所として提供するものである。

対象施設 ・黒髪キャンパス 運動場、体育館（平成 26 年度に災害時避難拠点施設として改修）
・本荘キャンパス 体育館（平成 26 年度に災害時避難拠点施設として改修）
・大江キャンパス 運動場、体育館（平成 26 年度に災害時避難拠点施設として改修）
・京町キャンパス 運動場（小・中学校）



大江体育館 外観



大江体育館 内観

(2) その他

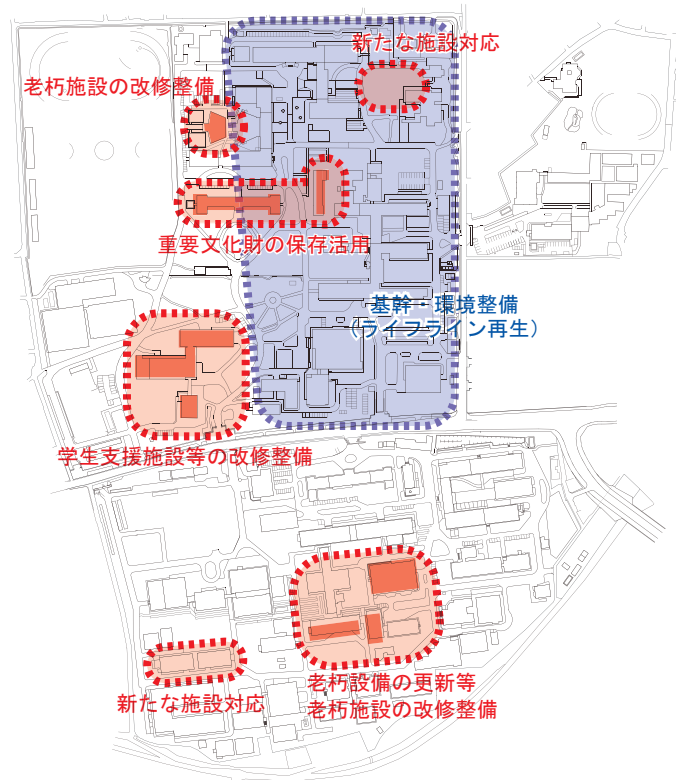
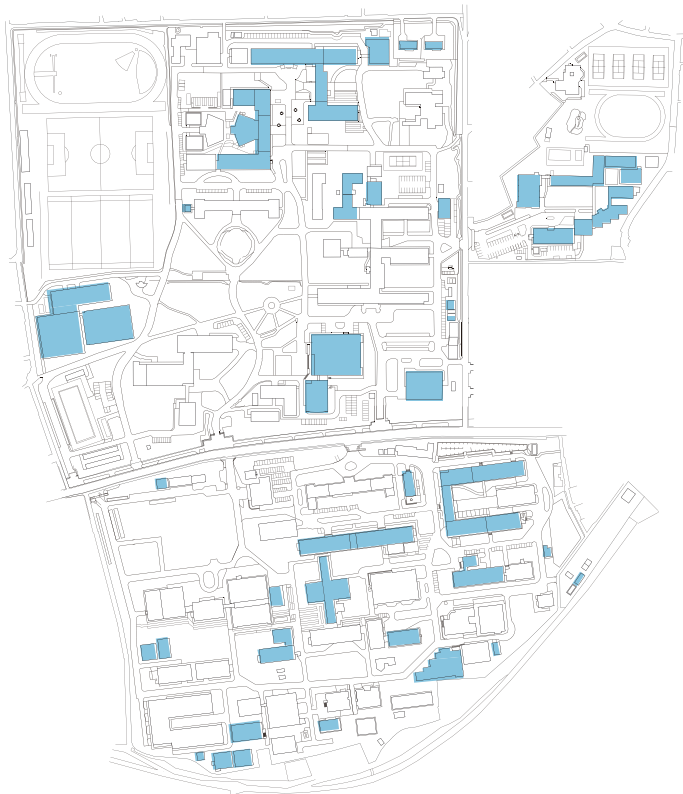
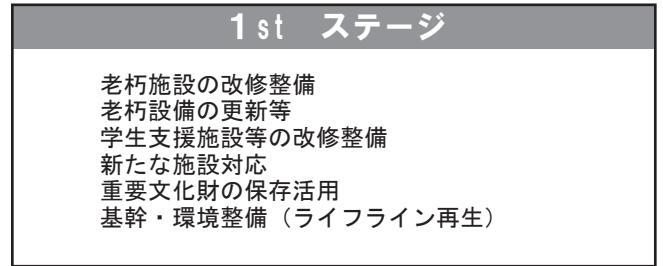
大学コンソーシアム熊本との連携

一般社団法人大学コンソーシアム熊本は、県内の高等教育機関と熊本県、熊本市が加盟する組織であり、本学学長が理事として教育・研究分野をはじめ 5 分野 21 の事業に取り組んでいる。

これらの地域と連携した取組みをより活発化するため、熊本における教育・研究の充実を図ることにより、地域の行政や産業界と連携しながら、地域社会の教育・文化の向上・発展に貢献する体制は整っており、今後、キャンパスの市民開放と地域貢献を推進していくこととする。

5-2 ステージ計画

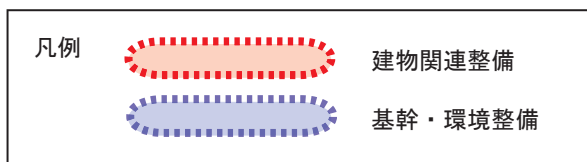
5-2-1 黒髪キャンパスのステージ計画



■ 2005年（平成17年）
～ 2015年（平成27年）
整備（新築・改修）

現 状

1st ステージ

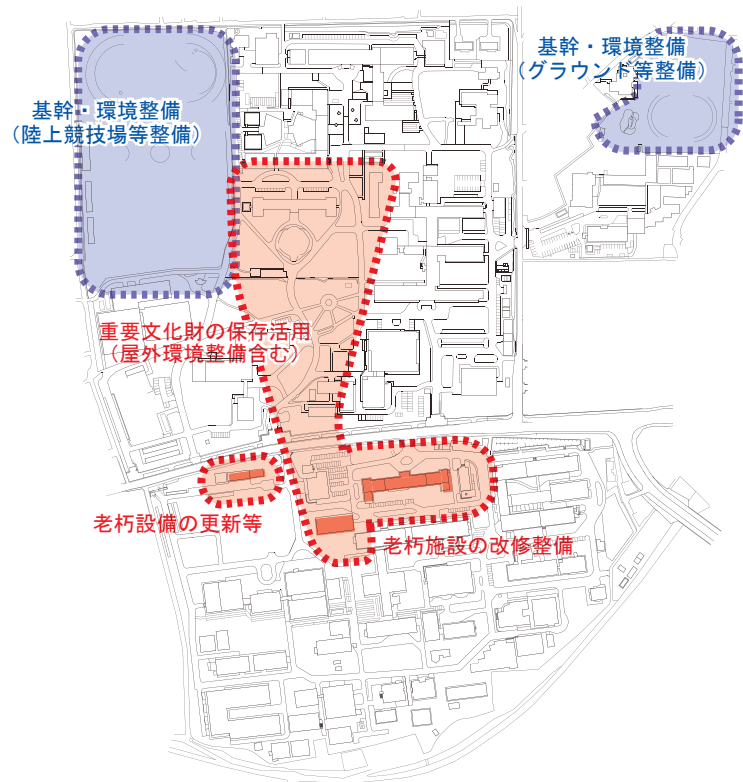
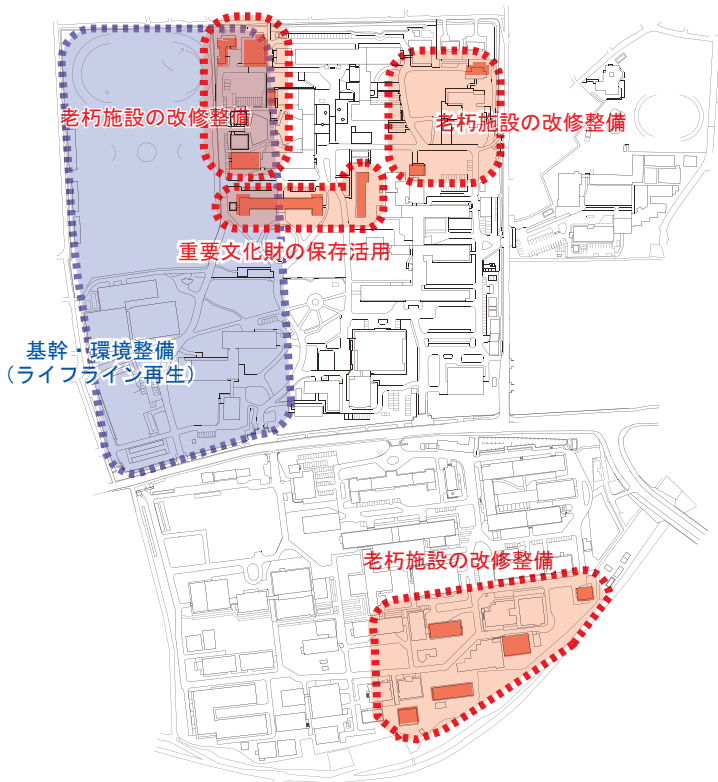


2nd ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 重要文化財の保存活用
- 基幹・環境整備（ライフライン再生）

3rd ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 老朽設備の更新等
- 重要文化財の保存活用（屋外環境整備含む）
- 基幹・環境整備（陸上競技場等整備）
- 基幹・環境整備（グラウンド等整備）



2nd ステージ

3rd ステージ

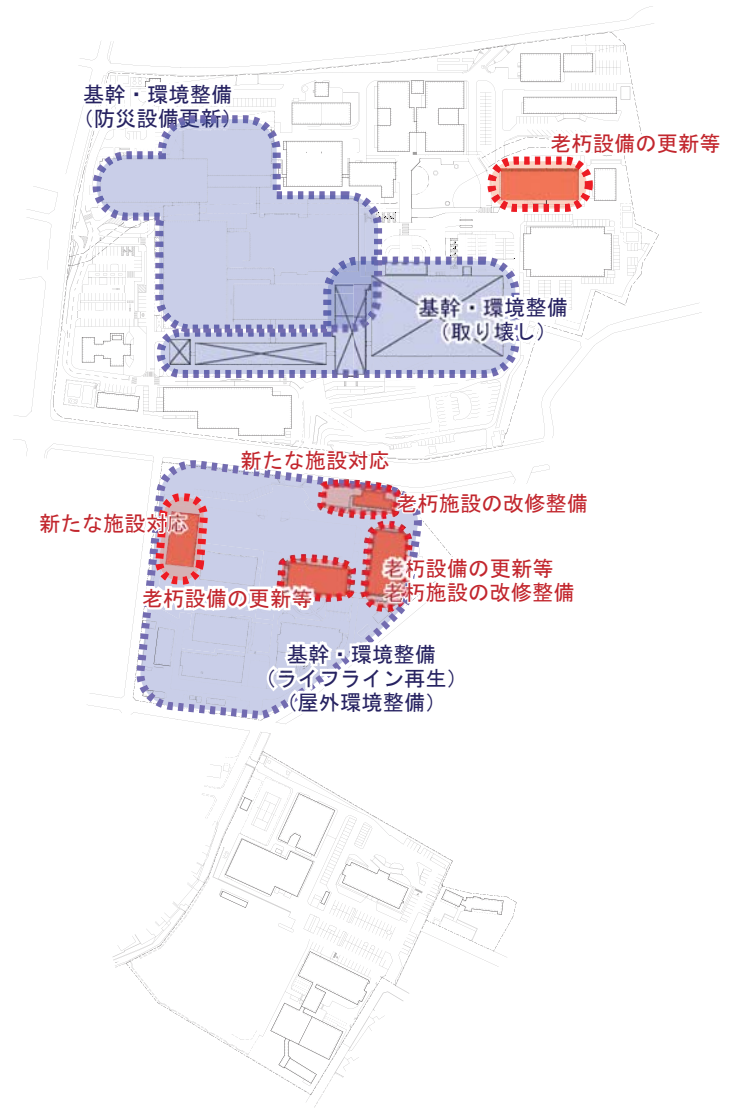
5-2-2 本荘キャンパスのステージ計画

現 状

新たな施設対応

1st ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 老朽設備の更新等
- 新たな施設対応
- 基幹・環境整備（取り壊し）
- 基幹・環境整備（ライフライン再生）
- 基幹・環境整備（防災設備更新）
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）



2015

現 状

凡例

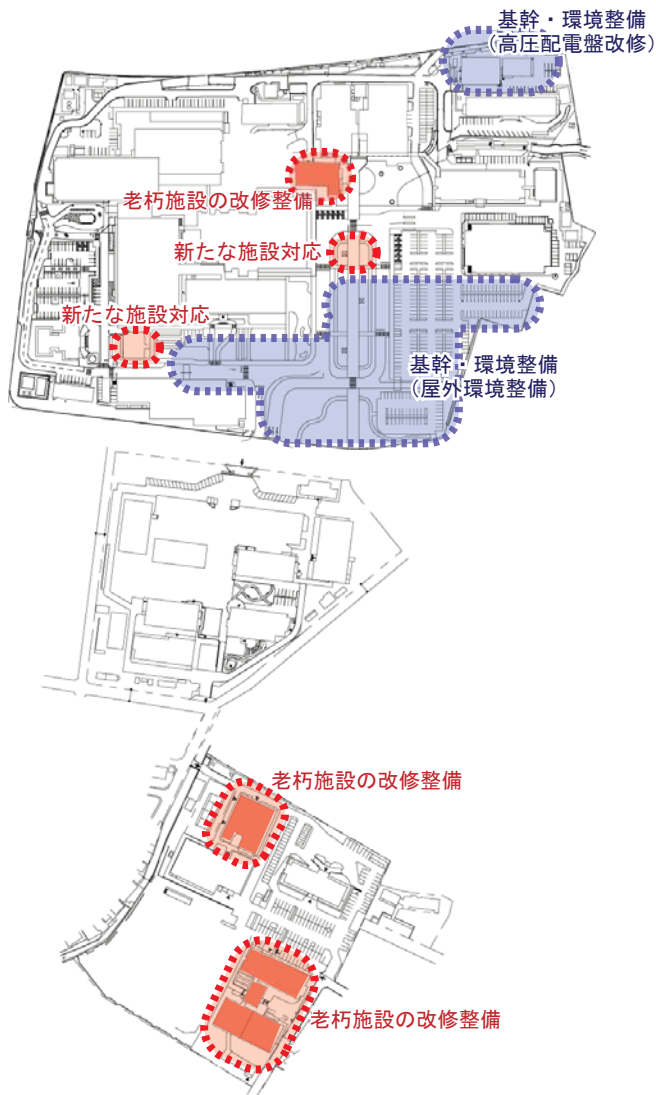
- 建物関連整備
- 基幹・環境整備

1st ステージ

5-2 ステージ計画

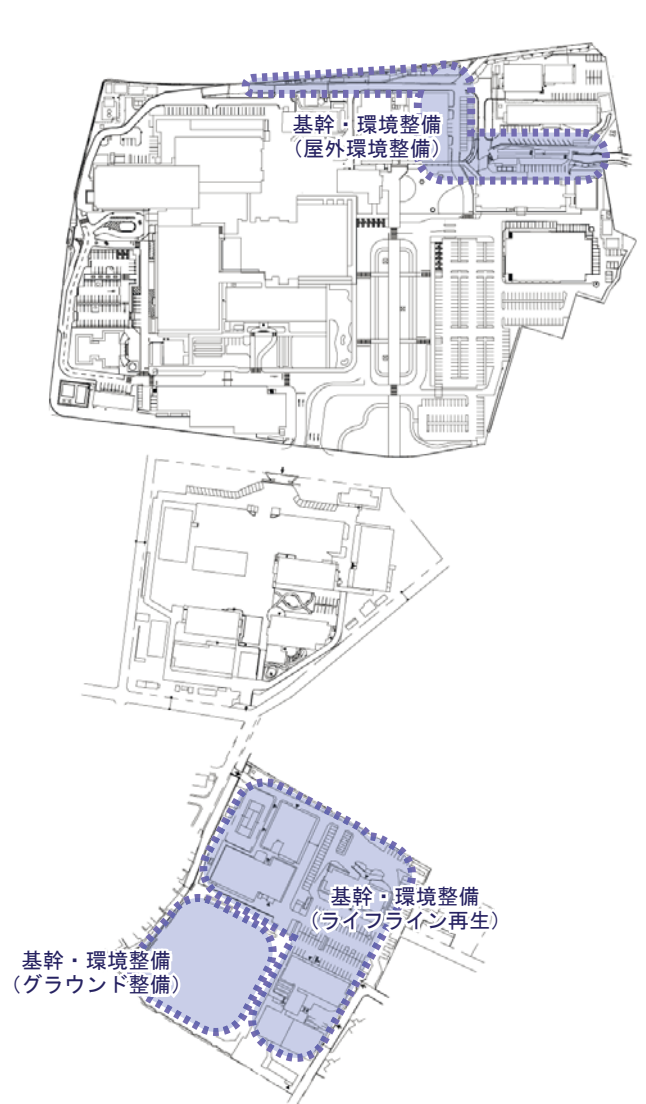
2nd ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 新たな施設対応
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）
- 基幹・環境整備（高圧配電盤改修）



3rd ステージ

- 基幹・環境整備（ライフライン再生）
- 基幹・環境整備（グラウンド整備）
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）

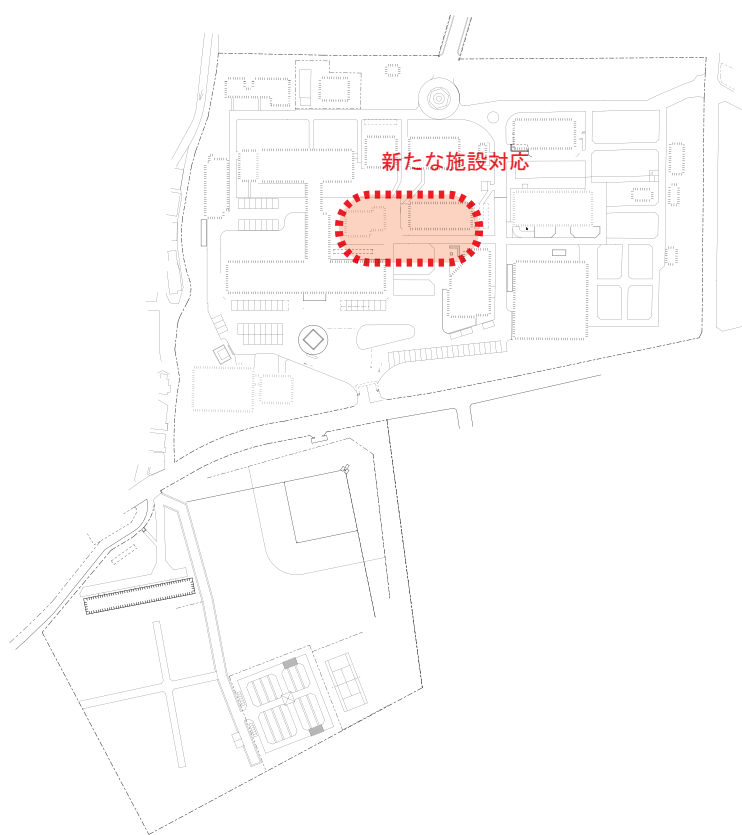
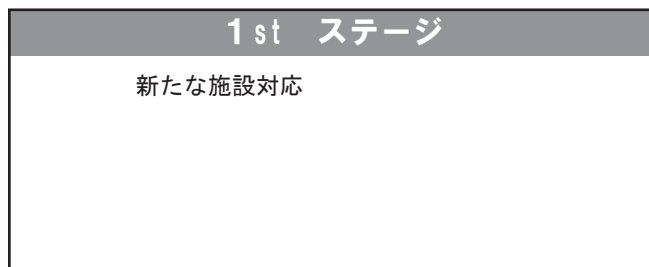


最終ステージ

2nd ステージ

3rd ステージ

5-2-3 大江キャンパスのステージ計画



■ 2005年（平成17年）
～2015年（平成27年）
整備（新築・改修）

2015

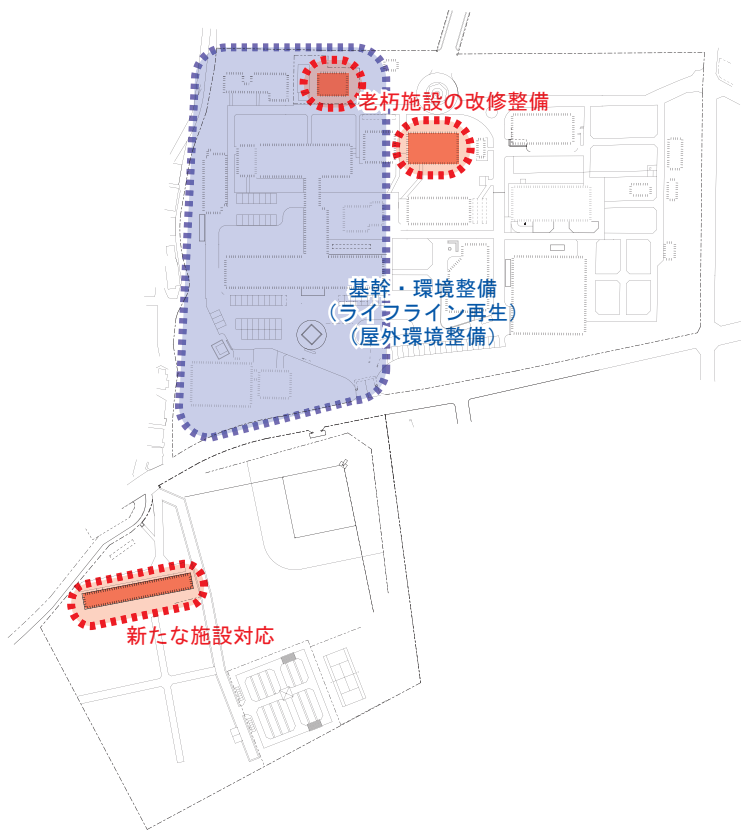
現 状

1st ステージ

凡例		建物関連整備
		基幹・環境整備

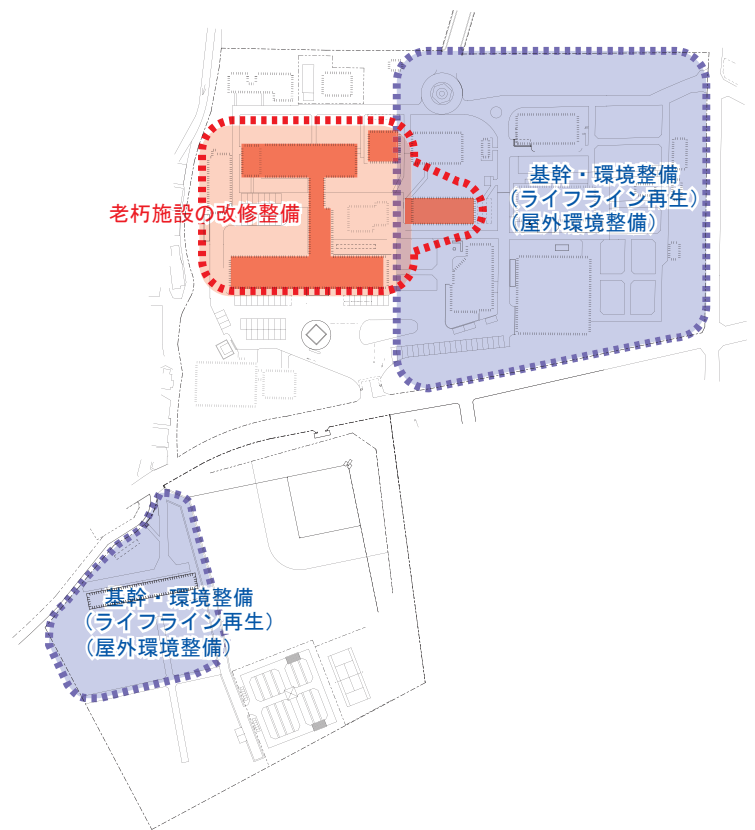
2nd ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 新たな施設対応
- 基幹・環境整備（ライフライン再生）
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）



3rd ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 基幹・環境整備（ライフライン再生）
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）



最終ステージ

2nd ステージ

3rd ステージ

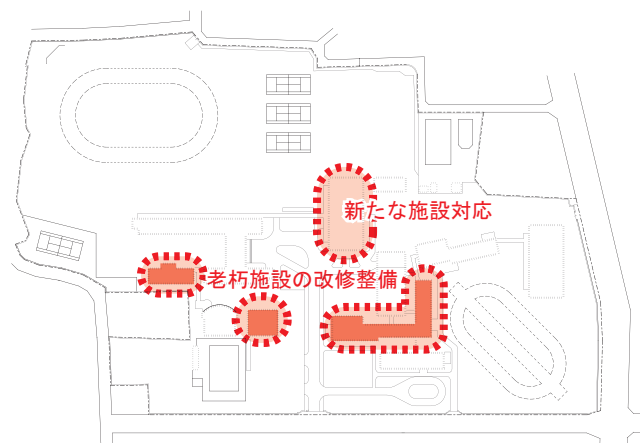
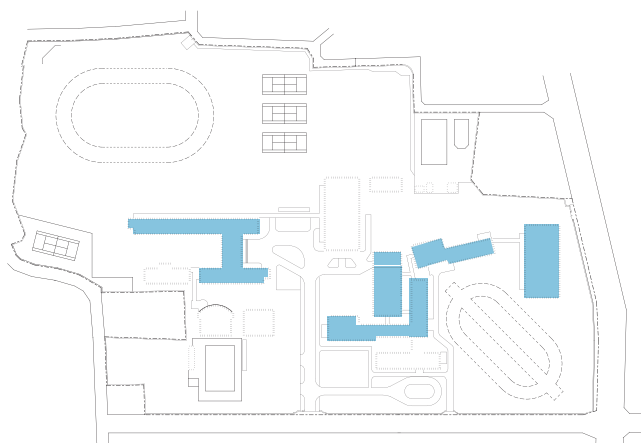
5-2-4 京町、城東町キャンパスのステージ計画

現 状

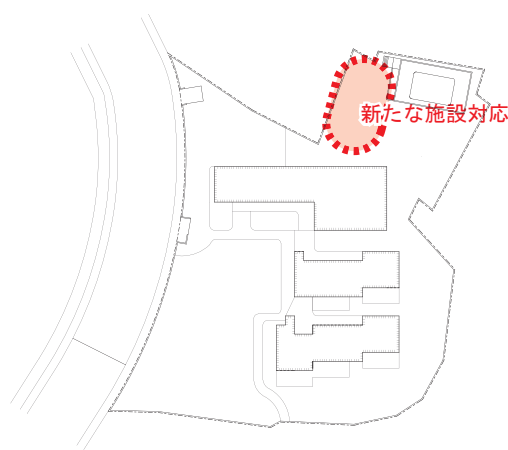
1st ステージ

老朽施設の改修整備
新たな施設対応

京町キャンパス



城東町キャンパス



2005年（平成17年）
～2015年（平成27年）
整備（新築・改修）

2015

現 状

1st ステージ

凡例



建物関連整備



基幹・環境整備

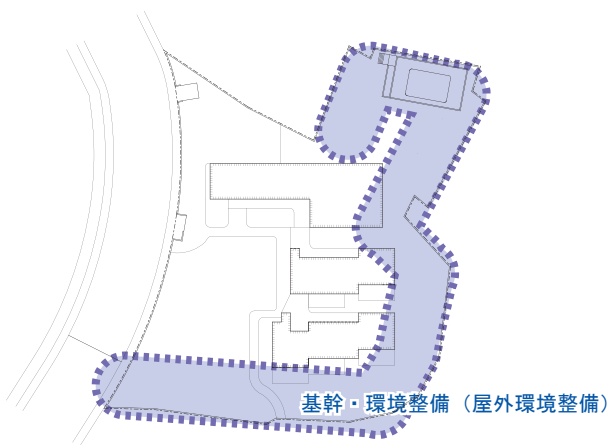
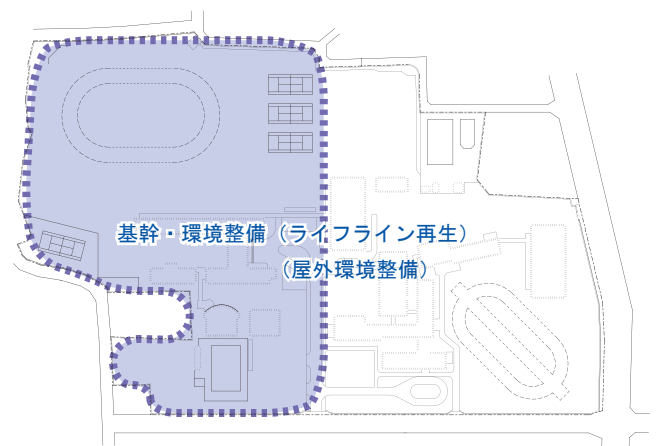
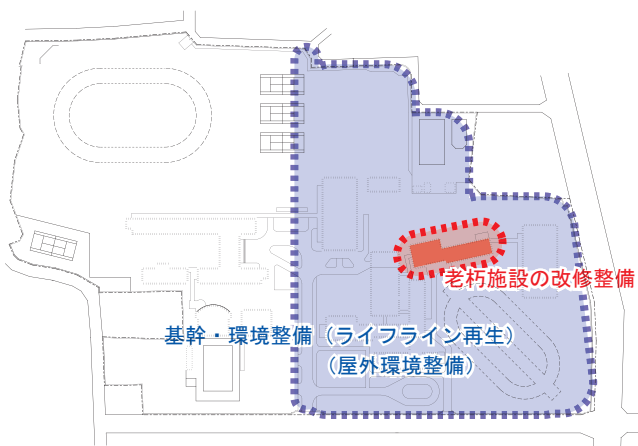
5-2 ステージ計画

2nd ステージ

- 老朽施設の改修整備
- 基幹・環境整備（ライフライン再生）
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）

3rd ステージ

- 基幹・環境整備（ライフライン再生）
- 基幹・環境整備（屋外環境整備）



最終ステージ

2nd ステージ

3rd ステージ

5-3 施設整備計画の実現に向けて

施設整備計画の実現に向けた資金の調達は、基本的に国費の獲得による計画とする。ただし、下記の事項については、自己資金（運営費交付金、目的積立金、寄附金等）や外部資金など、多様な財源の確保を積極的に検討する。

- 1) 自己収入が見込まれる施設（学生寄宿舍、国際交流会館、研究者宿泊施設、職員宿舎等）の整備
- 2) 産学官連携等による共同利用施設の整備
- 3) 重要文化財及び登録有形文化財建造物を中心とした歴史的・文化的資産の保存・活用整備
- 4) PFIやPPPなど、国費以外の財源について検討が必要と考えられる施設整備

病院施設については、施設・設備整備に係る資金計画・償還計画等を踏まえ、病院経営に支障を来さないように整備財源の確保を検討する。



PFI事業によって建設された本荘中5（発生医学研究所）／本荘キャンパス